

輝け！シン尾花沢中

たたえるほほの あかるさよ ああ光よぶ 学びやに

修学旅行の思い出から～何のために修学旅行に行くのか～

9月3日（水）に、2年生が東京方面への修学旅行に出発します。

修学旅行には、「集団活動を通して人間的な成長をめざす」目的があります。ここで、30年以上前の私が、担任として初めて引率した修学旅行の思い出を紹介します。

事前に、実行委員会を中心に「健康に過ごし有意義な修学旅行にするために、不要物を持ってこない」というきまりをつくり「きまりを守れなかったときは、徹底的に改善について話し合う時間を取り、活動の制限を受け入れる」と話し合っていました。

しかし、ある男子生徒A君が不要物（携帯用ゲーム）を持ってきたことが発覚しました。

食事会場に全員が集合し、話し合いが行われました。「入浴時間」がどんどん少なくなっていくます。疲労困憊、汗だくの生徒にとっては耐え難い活動制限となりました。険悪な雰囲気の中、A君への厳しい言葉が容赦なく浴びせられました。「おまえのせいで、風呂に入れなくなった。どうしてくれる！」「みんなで決めたきまりを何だと思っている！」

A君は、それらの言葉をうつむいて全身で受け止めていました。教師2年目の私は「どうなることか」とはらはらして事の成り行きを見守っていました。

10分ほどたったでしょうか。A君が、顔を上げ、ぼつぼつと語り始めました。

「僕のせいで、迷惑をかけてしまいました。ごめんなさい。僕はどんな罰でも受けます。先生方、きまりを守ったみんなをお風呂に入れてやってください。お願いします。」

深々と頭を下げたA君を前に、あれほど罵声を浴びせていた生徒達が静まり返りました。どれほどの時間がたったでしょうか。先程まで容赦ない罵声を浴びせていた実行委員の女子生徒Bさんが、前に出て全体の方に向き直りました。目には涙がたまっています。

「私はこのきまりを作った実行委員です。さっきまでA君に文句を言っていました。でも、私もきまりを破り、おこづかいを多く持ってきました。ごめんなさい。私も、どんな罰も受けます。ですから、みんなをお風呂に入れてやってください。お願いします。」

さあ、ここからは懺悔の雨嵐となりました。ウォークマン、ゲーム、余分なおこづかい…。結局半数以上の生徒がきまりを破って不要物を持ってきました。

黙っていればもしかするとごまかし通せたかもしれない、しかし、正直に告白してくれた生徒達を、私たち担任団は叱ることはありませんでした。

おこづかい、たくさんあれば買いたいものが買えるかもしれません。しかし、トラブルが起きます。何かしらの不要物を持っていくと、自分は楽しいかもしれません。しかし、トラブルが起きます。それぞれ、どんなトラブルが起こるか、想像してみてください。

不自由な思いをするかもしれませんが、ルールはみんなの幸せのためにあります。少し我慢することでトラブルを回避でき、いい思い出をつくることができるはずです。

2年生一人ひとりにとって素晴らしい修学旅行を創り上げてほしい。

「みんなで決めたルールをみんなが守ること」を期待しています。【文責：校長 工藤雅史】

